

10 高標高地帯(750 m)における

8月どり青首だいこん「耐病総太り」のは種期

(園試高冷地開発センター)

高標高地帯で、8月どり青首だいこん「耐病総太り」のは種期は、7月上旬である。適応地域は、標高700～750 m地帯。

(1) 背景とねらい

近年、高標高地帯において、夏どり青首だいこんの栽培が進められているが、は種期が適正でなく、早まきに過ぎて、だいこんの抽台が多く発生し、作柄を不安定にしている。

この高標高地帯における8月どり青首だいこんの生産安定を図るためには、安定なは種期を明らかにすることが極めて急務である。そのため標高750 mにある「区界地区高冷地開発営農試験地」において、青首だいこんの代表品種「耐病総太り」を用い、は種期試験を実施してきたところ、一応の結果を得たので指導上の参考に供する。

(2) 技術の内容

1) 8月どり青首だいこん「耐病総太り」のは種期は7月上旬である。

2) 適応地域

標高700～750 mの地帯

(3) 指導上の留意事項

1) この技術は露地栽培における、品種「耐病総太り」(タキイ種苗)に限る。

2) この品種の収穫日数は、は種類50～55日であり、遅どりにならないように注意する。

3) 抽台と気温との関係が深く、低温が予想されるときは、は種期を遅らせる。

(4) 当該事項にかかる試験研究課題名

高冷地野菜産地の開発

(5) 参考文献、資料

1) 昭和56年度 岩手県園芸試験場高冷地開発センター試験成績書

2) ダイコンの抽台に及ぼす昼温の影響(野菜試験場報告1982、B4施山、高井)

3) 青森県における青首ダイコンの初夏どり栽培(農業および園芸1983、佐藤、肥口、長谷川)

(6) 試験成績

表-1 は種期と収量および抽台率

年次	は種期	全重	調整重	根重	根長	障害根率 (%)					100当り 収量 (kg)	収穫期
						抽台	腐敗	裂根	岐根	計		
56	6.15	-	-	-	-	100	0	0	0	100	0	-
	7.1	1,556	953	801	37.0	0	10	5	0	15	4,500	8.22
	7.17	1,229	898	760	33.4	0	10	0	0	10	3,991	9.17
57	6.15	1,536	1,000	796	32.0	70	0	2.5	0	72.5	1,528	8.5
	6.25	-	-	-	-	100	-	-	-	100	0	-
	7.5	1,543	1,044	861	39.6	0	5	7.5	0	12.5	5,075	8.26

表-2 規格別量

年次	は種期	規格別割合 (重量%)					規格別収量 (kg/10a)					
		LL 1.2kg 以上	L 0.85~ 1.2	M 0.76~ 0.85	S 0.6~ 0.76	格外	LL	L	M	S	格外	
56	6.15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	7.1	15.3	73.8	0	7.8	3.1	688	3,322	0	351	139	
	7.17	17.3	60.1	0	18.5	4.0	691	2,399	0	740	161	
57	6.15	18.8	71.0	5.9	4.3	0	287	1,095	90	66	0	
	6.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	7.5	38.0	44.5	11.3	3.6	2.6	1,929	2,258	573	183	132	

(参考資料)

表-3 抽台と気温との関係

(品種:耐柄総太り)

試験地	年次	は種期	抽台率 (%)	は種後15日間の	
				平均気温	平均最低気温
区界 標高 (750m)	56	6.15	100	14.4℃	10.0℃
		7.1	0	19.6	16.2
		7.17	0	20.9	16.1
	57	6.15	70	14.1	8.0
		6.25	100	15.0	8.3
		7.5	0	18.1	10.5
高冷地 開発 標高 (430m)	55	6.5	5	17.8	12.8
		6.25	5	16.3	13.3
	56	5.20	100	10.3	4.9
		6.5	95	14.0	10.6
		6.20	80	15.5	12.3
	57	6.4	37.5	15.5	9.1
6.20		7.5	13.6	9.5	

※区界試験地の56年気温は「地域気象観測」の門馬を使用した。